

研究部連合会執行委員会

73年度駿台祭へ向けて

何故、僕らは孤立を強いられるのか。

僕らの孤立は大衆のもっとももっともラジカルな証左なのか。

うめけようめけ、うめきを僕らの闘争の糧にしよう。

石よさけべ、もし石の沈黙が続くならば、その石の沈黙の有意性にかけよう。

僕らの発した「ことば」が肉体をなくしてホウ皇するのなら。

僕らにそのような死んだ「ことば」はいらない！

駿台祭の季節が今年も訪れた。「祭」とするには、我々の現状況はあまりに似つかわしくないものでありながらも。毎年九月、十月になるとくり返され、様々に展開されるところの駿「駿台祭」論。例にもれず私達もこれをめぐって意見を闘わせた。何のために、そう私達はやり抜こうとしているからです。私達自身の直接的創造としての「駿台祭」を。私達は昨年来の学費値上阻止闘争の過程で、私達の自主的なサークル運動の拠点であった学館を奪われましたしかし、しかしそれでも私達のサークル運動はその焔を消え去らせる事なく今もお、続いているのです。私達は現在の、又これからの私達をとりまく、政治、社会、文化情況の流れの中

で、Ⅱ部サークルの団結を築き上げよう！をスローガンとしてかけました。私達が、現時点で置かれているこの状況を正確に把握し、そこからこの現状況を切り拓き、新しい地平を視界にいれるべく、私達の運動を推進しようとしています。

駿台祭に対しての基本的立場

私達研連執行部は73年度駿台祭に対して次の基本的立場をとりたい。まず第一に私達が確認しておかなければならないのは、この「駿台祭」を通してⅡ部学生相互間の交流・各サークル間の交流を計り、さらにその立場をふまえて一般大衆との広い交流をも合わせて獲得していきたい。そこから個々サークルの独自の運動の発展を促進し、その段階を通して強固な団結をもったサークル総体としての研連活動を克ち取っていきたいと思います。何よりも、「駿台祭」は日常の一定の連続性から、非日常の時間空間として分断されたものであってはならない。私達の普段の活動、そこにおいての日々の思想的営為を点検し、確認していく場として、今後の方向性をも視すえるひとつの機会としてとらえていきたいと思います。

- ① 自立したサークル活動を通し、研連の強化を克ちとろう！
- ② サークル間の交流を推進し、Ⅱ部サークルの団結を築きあげよう！
- ③ サークルへの弾圧 - 解体攻撃を粉碎しよう！
- ④ ロックアウト体制粉碎！
- ⑤ 学館、8号館、4号館即時無条件全面解放！
- ⑥ 学長告示体制粉碎！
- ⑦ 学学費値上げ白紙撤回！
- ⑧ 学内統廃合 - 夜間部（Ⅱ部）改廃粉碎！
- ⑨ 大学当局のⅡ部学生への差別 - 不平等撤廃！
- ⑩ （学長、理事長）団交要求 - 実現しよう！
- ⑪ 全ての学友をサークルへ！

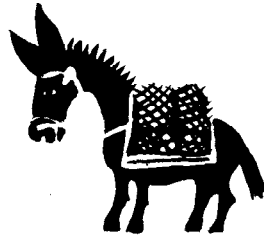
喫茶

ボナ

明治大学前
TEL (291) 6569

伝統の味

ハトヤ
Coffee



神田駿台下（住友銀行隣）
TEL (291) 4741
ニクイホドシナヨイ

麻雀

和光

TEL (291) 9576
明大横増淵薬局ビル地下

書籍の購入は

茗溪堂書店

お茶の水駅交差点